

2015年12月28日

久留米大学医学部医学教育研究センター

<http://csme.asuscomm.com/wp/>

神代龍吉、安達洋祐、柏木孝仁、北川周子

1. Moodle mini FD の開催

11月30日(月)と12月21日(月)の17:00~18:00、1611教室で、学生の予習用教材をMoodle®(ムードル)にアップするFDを開催した。来年は中級編として1月18日(月)と2月24日(水)に予定している。予習用教材の提供率は大学自己点検のIR関連項目として必要であることから、今後各講座に教育用サーバに教材を事前にアップすることを推奨していく。

2. e-ポートフォリオシステムの準備

Mahara®を利用したe-ポートフォリオを立ち上げ、一例として第1学年の医学入門実習のポートフォリオを電子化した。この実習関係者に回覧して利便性、利点、欠点などを伺っている。PBL テュートリアルやクリニカル・クラークシップのポートフォリオについても順次電子化していく予定である。

3. クリニカル・クラークシップに関するアンケートより

教務委員長名で発送した標記アンケートを当センターで集計し、関係各部署へ報告した。カンファランスや病状説明参加をさせている一方、知識重視で小講義を行う傾向が見られ、患者との接触、外来経験、地域医療経験、態度教育は決して十分とは言えないと思われた。評価方法にはばらつきがみられた。電子カルテへの記載は許されておらずシミュレーション教育や屋根瓦方式の普及率は低かった。3分の2の講座がクラークシップ期間に国試対策をしていた。人手不足で多忙の臨床講座ではあるが技能・態度教育を含む参加型クラークシップへの模索が必要と思われる。学生もまた外来・病棟で自ら学ぶという自覚が大切と思われる。

4. 教学 IR (Institutional Resserach) としての業務

大学自己点検評の評価対象となる教学 IR として、アクティブ(オンライン)シラバス入力率向上、双方向性授業の普及(TBL 導入率)、学生の自己主導型学修の推進(放課後学習時間)を重点項目として新たに掲げる。

5. 医学教育WS

原則、隔年開催の久留米大学医学教育ワークショップは今年度から当センターの役割りとなり、平成28年がその嚆矢となる。来年8月25、26日(木、金)に学外での開催を予定している。テーマは学生の学力向上に関するものとする方向で検討中。

6. タブレット購入

TBL 授業には最低5名に1台のタブレットPCが必要であり、20台を購入する。従来のク

リッカーに比して教員の準備、負担が少なく、学習者も検索、記録、記述が可能で、学習方略が広がることが期待される。

7. 大学院修士課程の授業計画

次年度の本学修士課程（医学教育学）の授業計画書を提出した。カリキュラムの3要素、双方向性授業、アクティブ・ラーニング、反転授業、プロフェッショナリズム等を予定。

8. 学外活動

共用試験機構の依頼で安達が琉球大学のCBTモニター（本試験3日間、再試1日間）に出向した。本試験に3日かけるのは琉球大学の試験設備が小さいため。

9. 医学教育学会

4年生の学生から医学教育学会で発表したいデータがある、と当センターに連絡があった。希望に添えるよう援助していく。

10. 学生の成績

6年生の各種テスト成績（総合試験、テコム模擬試験等）を集計し、国試の予想を立てる作業をほぼ終了したので、これを1月初旬に教務委員長へ提出する。

以上